

●第6回再生可能集積システム時限研究会

委員長 松本 智(慶大)

副委員長 上原 稔(東洋大)・中尾健彦(東芝)

21世紀になって人類の活動が地球環境に及ぼす影響が著しく増大し、環境変動が憂慮されています。このために、特に人類が製造した人工物に関し、その再生利用や再利用を促進する技術開発が強く期待されています。ユビキタス情報社会において、ほとんどの我々の身の回りの人工物に、集積システムが組み込まれています。したがって、これらのシステムの再生、再利用を図ることは、地球環境に優しいという面だけでなく、経済、政治などの面からも重要です。具体的な探求課題としては、直接的な再生、再利用の促進に関する技術開発に加え、ライフサイクル全体の省エネルギー化やコスト削減も重要な探求課題になります。このためには、アーキテクチャの根本的な改革、耐久性の低下した部品において、安心、安全な運用を確保するフォールトトレランス、セキュリティ技術の研究、製造から再生に至るライフサイクルのビジネスモデルの探求などが重要です。このように、本研究では、従来型とは大きく異なった開放的な分野による総合的なアプローチが必要です。

本時限研究専門委員会は、こうした問題意識を持ちながら、リコンフィギュラブル技術、アーキテクチャ技術、ソフトウェア工学、設計技術、システム技術、再生ビジネスモデルなどの分野の研究者の自由な交流を促進し、集積システムの再生、再利用による環境に優しいIT技術の研究に関して、研究発表及び討論を行う機会を提供します。本研究会は定期的に研究会を開催することにより、関連する研究者に広く技術交換の機会を提供し、産業界と大学等の研究機関の交流の機会を増やすことにより、関連する技術の発展を図っていくことを目的とします。

今回の第6回再生可能集積システム研究会を下記要領で一般発表を募集致しますので、多数の申し込みをお待ちしております。

日時 平成24年10月13日(土) 13:00~18:00

会場 山形大学工学部米沢キャンパス4号館セミナー室

一般講演申込締切 8月17日(金)

発表を希望される方は、論文題目、著者、所属、連絡先を下記申込先までお申し込み下さい。

【申込先】

上原 稔(東洋大)

E-mail : uehara@toyo.jp

【問合先】

多田十兵衛(山形大)

E-mail : jubee@yz.yamagata-u.ac.jp

◎RIS ホームページも御覧下さい。

<http://www.am.ics.keio.ac.jp/reconf/ris/>

主催 再生可能集積システム時限研究専門委員会

●第49回機能集積情報システム研究会

委員長 肥川宏臣(関西大)

本研究会は、ディベンダブルコンピューティング研究専門委員会の下での第二種研究会として開催します。本研究会は、平成3年に設置された「ウェーハスケール集積システム時限研究専門委

員会」以降、複数の時限研究専門委員会の下での研究会を経て現在の研究会に引き継がれました。

近年のLSI製造技術の進歩により、大規模かつ斬新な情報処理機能をシリコンウェーハあるいは大規模ICチップ上に集積・実装する情報システムFIIS(Functional Integrated Information System)の構築技術が注目されています。そこで、本研究会では次に示す幅広い研究分野を対象としています。

まず、ICチップ製造段階では、チップの歩留まり解析、歩留まり向上設計法、レイアウト解析、フォールトトレラント手法などがあげられます。また、ICチップ上の情報システム構築(SOC: System On Chip)技術としては、IC内部の欠陥検出法(テスト手法やBIST: Build In Self Test)や誤り訂正・回復技術、故障を許容する高並列プロセッサや相互結合網の再構成方式、耐故障再構成可能情報システムの構築技術、動的再構成可能情報システムの構築技術、低消費電力技術などがあげられます。更には、故障モデルの解析、信頼度解析、性能評価などの理論的解析手法もあげられます。

本機能集積情報システム(FIIS)研究会は、上述したような技術を、応用分野の枠を超えた高性能・高信頼性・低消費電力のマイクロ情報システム実現のための強固な枠組みであるととらえています。本研究会では上記内容を中心としていますが、それらにとらわれず、各種応用研究を含めた広い研究分野からの研究発表を歓迎致します。

今回の第49回機能集積情報システム研究会を下記要領で一般発表を募集致しますので、多数の申し込みをお待ちしております。

期日 平成24年10月19日(金)

会場 東洋大学川越キャンパス(川越市鯨井2100)

一般申込締切 8月13日(月)

発表を希望される方は、論文題目、著者、所属、連絡先を下記幹事までお知らせ下さい。

【申込・問合先】

金子晴彦(東工大大学院情報理工学研究所)

E-mail : hkaneko@fuji.cs.titech.ac.jp

主催 ディベンダブルコンピューティング研究専門委員会

●第17回ネットワークソフトウェア研究会

委員長 水野 修(工学院大)

委員会の内容

本時限研究専門委員会は、ネットワークの変革がソフトウェア技術にもたらすインパクトや、ソフトウェアの技術革新がネットワークサービスに及ぼす変革に対して問題意識を持ち、ネットワークソフトウェア技術に対する要求条件や実現技術について研究・実用化の両面に関して議論をします。

期日 平成24年10月25日(木)、26日(金)

会場 国民宿舎小豆島ふるさと荘交流センター

テーマ: ネットワークの振る舞いを定義するためのソフトウェア技術+一般

概要

OpenFlow等のネットワーク仮想化技術が進展しSDN(Software Defined Network)を実現する製品も登場している。仮想化技術は適用分野によって様々な方式が考えられるが、従来、個々のルータに配置されていた様々な機能を集中制御することによって、従来よりも容易にネットワークの経路制御、アクセス制御、QoS制御、セキュリティ制御等が実現できる。また、ネッ

トワーク構成を意識せずにアプリケーションが作成可能となることで、従来にはない新たな発想によるサービスの創出も期待される。本研究会では以下に例を示すテーマで研究発表を募り、今後のネットワーク仮想化技術の方向性について幅広く議論を行う。

- ・データセンタネットワーク等へのネットワーク仮想化技術の適用事例の報告
- ・SDNの運用方法やSDNを利用した新たなサービス生成方法に関する提案
- ・トンネル技術やマルチテナンシー等、ネットワーク仮想化のための要素技術に関する提案
- ・既存のネットワークからの移行方法に関する提案
- ・その他一般

本研究会の特徴

参加者の産学のバランスがよく、更に時間にとらわれず活発に議論する風土がありますので、発表者は様々な角度から多数のフィードバックを得ることができます。また、他研究会には例を見ない独特の発表形式を採用しておりますので、発表者は目的に応じた議論を自由に展開することができます。これにより、検討結果の発表だけでなく検討経過や問題提起等についても発表・議論して頂けます。

また、本研究会では、議論を促進することを目的としてディスカッション賞を設けています。受賞対象は有意義なディスカッションを頂きました参加者となりますので、是非活発な議論をお願い致します。

発表形式：下記2種類の発表形式からお選び下さい。

- ・一般講演：掘り下げた議論を御希望の方向へ

1件当たり約50分（質疑含む）という十分な時間をかけ、深く掘り下げた議論や多様な視点からの広範なフィードバック獲得が可能となります。

- ・ポジションペーパー：構想段階等にて意見を収集したい方向へ1件当たり約5～10分程度で、一般講演するほどの内容ではないが、是非意見交換をしたい内容などについて、発表者の目的に応じた自由な形式で議論して頂けます。

【一般講演の申込と原稿提出】

- ・申込方法

講演者氏名、共著者名、所属、講演題目、概要（400字程度）、連絡先（住所、E-mailアドレス、電話番号、FAX番号）、講演者の方の参加費種別（一般/学生）を明記の上、期日までに電子メールでお申し込み下さい。講演者の方は参加申込もされたものとみなしますので、下記参加申込に関する注意事項も合わせて御確認下さい。

締切（一般講演申込）：9月20日（木）

- ・原稿提出方法

PDFファイルにて、電子メールでお送り下さい。原稿の体裁は規定していませんが、Power Pointなどの発表スライドを原稿として提出される場合は、1ページ当たり1スライドとなるようPDF化して下さい。発表スライドで頂きました原稿は、投稿状況に応じて1ページ当たり2スライドまたは4スライドの形式で予稿集へ掲載させて頂きましますので、あらかじめ御了承下さい。

締切（一般講演原稿提出）：10月11日（木）

【ポジションペーパーの申込と原稿提出】

申込方法は、上記の一般講演と同様です。原稿は、PDFファイル（A4判1枚・様式自由）にて、電子メールでお送り下さい。

締切（ポジションペーパー申込・原稿提出）：10月11日（木）

※ポジションペーパーの申込・原稿提出は上記期日を過ぎてからも

受け付けます。ただし、期日以降の申込・原稿提出を御希望の方は、事前に電子メール等にてお問合せ下さい。また、期日以降の申込みでは予稿集に氏名・所属が掲載されませんので御注意下さい。

【参加申込】氏名、所属、連絡先（住所、E-mailアドレス、電話番号、FAX番号）、参加費種別（一般/学生）を明記の上、期日までに電子メールでお申し込み下さい。研究会に参加した方々の議論・意見交換活性化のため、当日紙配布する参加者名簿に氏名・所属・E-mailを掲載予定ですが、問題等ございましたら御連絡下さい。

締切（参加申込）10月11日（木）

【参加費と参加費支払方法】

一般 9,000円 学生 3,000円

参加費を下記の期日までにお振り込み下さい。なお、振込後の参加費の返還には応じかねますので、御了承下さい。請求書もしくは領収書が必要な場合は、参加申込の際にその旨をお知らせ下さい。

振込先 みずほ銀行 三鷹支店

口座名：ネットワークソフトウェア研究会

口座番号：普通 4298770

締切（参加費振込）10月24日（水）

【講演・参加申込・原稿提出先】

西村豪生（NTT）

〒180-8585 武蔵野市緑町3-9-11

TEL [0422] 59-7339

E-mail : nws-kanji@mail.ieice.org

【研究会全般に関する問合せ】

別所寿一（NTT）

TEL [0422] 59-6921

主催 ネットワークソフトウェア時限研究専門委員会

<http://www.ieice.org/~nws/>

●第10回 QoS ワークショップ

委員長 山崎達也（NICT） 副委員長 高橋 玲（NTT）

日時 平成24年11月2日（金）13:00～18:00（時間は暫定）

会場 東京工業大学大岡山キャンパス蔵前会館（目黒区大岡山2-12-1）

テーマ：ビッグデータ時代の情報通信サービスとクオリティ（仮）

趣旨

有線・無線ネットワークの高速化、広域化やスマートフォンの高機能化に伴い、ソーシャルメディアや広範囲に配置されたセンサから得られるデータをネットワークを通して収集することが可能になっています。更に、このような大量のデータの中から価値のある情報を選別して、私たちの身近にある多種・多様な情報通信サービスの品質を改善したり、新たな情報通信サービスを創出するといった要求が高まっています。この要求を満たし、より豊かなサービスを実現するには、データの収集・解析から選別された情報がサービスの品質に与える影響の分析まで、従来の情報通信の枠にとらわれない幅広い技術が重要となってきます。

コミュニケーションクオリティ研究専門委員会では、情報インフラ化したインターネット、高品質でセキュアな次世代ネットワーク、更なる先を見据えた新世代ネットワークにおいて、ユーザ・アプリケーションが要求する多様な品質を提供する方法を、従来の技術にとらわれず、かつ学術的・学際的な観点から議論す

ることを目的とし、2004年より9回のQoSワークショップを開催してきました。

本年度は、高速化、広域化が進むネットワークによって得られるデータと情報通信サービスの品質の関わりについて議論するため、第10回QoSワークショップを開催します。特に、広域センサネットワーク上で効率的にデータを収集するためのネットワーク技術、膨大なデータを解析するための機械学習技術、ソーシャルメディアがサービスに与える効果分析に関する手法などについて、第一線の研究者による実践的なチュートリアル講演を行います。

更に、若手研究者を対象にして、種々のサービス、システム、ネットワークにおけるQoS/QoEのあり方、QoS/QoEの評価、設計、制御、運用などの観点から幅広く深い議論を行うポスターセッションを開催します。一般及び学生を対象に広く募集しておりますので、奮って御投稿下さい。また、QoS/QoEに関する研究開発成果や製品レベルのデモンストレーション展示についても募集致します。

内容（予定）

1. [招待講演] 澤田 宏 (NTT)
2. [招待講演] 寺西裕一 (NICT)
3. [招待講演] 浜口斉周 (NHK)
4. ポスターセッション
5. デモンストレーション展示

【ポスター発表募集】

ブロードバンド・ビッグデータ時代の通信ネットワークと情報通信サービスの品質に関するポスター発表を募集します。QoS/QoEの評価、設計、制御、監視、運用と幅広いテーマで募集致します。これらに限ることはなく、学際領域の発表も歓迎します。ポスター発表者には予稿の提出をお願いします。予稿は日本語または英語で、フォーマットは電子情報通信学会総合大会のシンポジウム講演（A4用紙2頁）に準じます。また、投稿原稿はワークショップ予稿CD-ROMに収録されます。

【デモ展示募集】

ブロードバンド・ビッグデータ時代の通信ネットワークと情報通信サービスの品質に関するデモンストレーション展示を幅広く募集します。企業による製品レベルの展示も募集致します。

【申込方法・ポスター発表申込・デモ展示申込】

本ワークショップのホームページ http://www.ieice.org/cs/cq/jpn/qos_workshop10/index.html を御覧の上、お申し込み下さい。

【参加費】（予定）

一般：6,000円 学生：1,000円

【問合せ先】

引地謙治（富士通研）、中村信之（OKI）

E-mail：cq_ac-qos-ws@mail.ieice.org

主催 コミュニケーションクオリティ研究専門委員会

●第2回安全・安心な生活のための情報通信システム研究会

委員長 岡田和則（NICT） 副委員長 田村 裕（中大）

昨年3月11日の東日本大震災以降、見直される被害想定、新たに発見される活断層、爆弾低気圧による暴風雨、大規模な被害をもたらす竜巻など、私たちの生活は、新たな脅威にもさらされています。このような大規模な自然災害だけではなく、交通事故、誘拐等児童への犯罪等の様々な脅威が、私たちの日常生活を

脅かしています。これらの被害を避ける、軽減する、更には、大規模災害時の復興や地域再生のために、情報通信システムが果たすべき役割は大きいと考えられます。当研究会では、真に役立つシステムの実現のため、これらの情報通信技術の研究開発だけでなく、災害時に求められる情報の在り方などの社会科学分野などとの学際的な検討を目指しています。第2回研究会を下記の日程で開催致しますので、研究発表を募集致します。

対象分野：安全・安心な生活のための情報通信システムに関する以下の分野

- ・アドホックネットワーク構築技術
- ・輻輳制御技術
- ・高信頼無線アクセス技術
- ・コグニティブ無線技術
- ・広帯域無線伝送技術
- ・ネットワークシステム設計技術
- ・最適配置技術
- ・ITS技術
- ・センサネットワーク構築技術
- ・災害情報学
- ・災害時行動心理学
- ・危機管理情報学

上記に限らず、幅広い分野からの研究発表を募集致します。奮って御応募下さい。

発表を御希望される方は、論文題目、著者名、所属、連絡先を下記幹事までお知らせ下さい。

期日 平成24年11月15日（木）、16日（金）

会場 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」（新潟市中央区笹口1-1 プラウカ1・2階、JR新潟駅南、<http://www1.niigata-u.ac.jp/tokimate/>）

発表申込締切 9月7日（金）

【申込先・問合せ先】

中野敬介（新潟大）

TEL & FAX [025] 262-6751

E-mail：nakano@ie.niigata-u.ac.jp

川上 博（NTTドコモ）

TEL [046] 840-3870, FAX [046] 840-3781

E-mail：kawakamih@nttdocomo.co.jp

◎最新情報を研究会 Web ページで掲載致しますので御参照下さい。 <http://www.ieice.org/ess/icsssl/>

主催 安全・安心な生活のための情報通信システム時限研究専門委員会

●第26回多値論理とその応用研究会

座長 荒木智行（広島工大）

目的

半導体微細化技術の飛躍的な進歩が情報処理・通信システムの目覚ましい性能向上の原動力になってきたが、近年、微細化によるLSI性能向上の限界が次第に現実化しつつあり、それを打破すべく、デバイス・回路からアーキテクチャに及ぶ広い領域で様々な試みが精力的に研究されている。

「0」と「1」だけでは表現できない世界を考察する多値論理の歴史は古く、論理設計に利用されてきたほか、LSIの高速化、チップ面積化に有効な手法として研究が進められてきたが、テクノロジーの限界が近づきつつある今、それを打破する新たな可能性を秘めた有力な手法の一つとして、多値論理が注目を集めてい

る。例えば、冗長性を含む多値アルゴリズムは、特性変動が大きいデバイスを前提とするナノコンピューティングとの整合性が良く、革新的なナノアーキテクチャの実現につながる可能性がある。

本研究会は、多値論理研究会と共催で、論理学、数学、論理設計、フォールトトレラント、ファジィ、人工知能等の側面から、また、デバイス、回路技術の観点から、多値論理の基礎とその応用について最新の研究成果を発表するとともに、分野の壁を越えた様々な研究者の間で意見交換と討論を行うことを目的としています。

日時 平成25年1月12日(土)午後、13日(日)午前

会場 上智大学四谷キャンパス

応募の資格 特になし

申込み・原稿締切日

講演申込締切 10月12日(金)

原稿締切 11月30日(金)

【申込・原稿送付先】

永山 忍 (広島市大情報科学部情報工学科)

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東 3-4-1

TEL [082] 830-1599, FAX [082] 830-1568

E-mail: s_naga@hiroshima-cu.ac.jp

【会場担当幹事】

和保孝夫 (上智大理工学部情報理工学科)

TEL [03] 3238-3412, FAX [03] 3238-4156

E-mail: waho@ieee.org

主催 ディペンダブルコンピューティング研究専門委員会

共催 多値論理研究会 (<http://mvl.jpn.org/>)



複製される方へ

一般社団法人電子情報通信学会は、本誌掲載著作物の複製に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しております。本誌に掲載された著作物の複製を御希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けて下さい。ただし、企業等法人による社内利用目的の複製については、当該企業等法人が社団法人日本複製権センター((社)学術著作権協会が社内利用目的複製に関する権利を再委託している団体)と包括複製許諾契約を締結している場合にあつては、その必要はございません。(社外頒布目的の複製については、許諾が必要です。)

<権利委託先> 一般社団法人学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3F FAX [03] 3475-5619 E-mail: info@jaacc.jp

複製以外の許諾(著作物の引用、転載、翻訳等)に関しては、(社)学術著作権協会に委託致しておりません。直接、下記へお問い合わせ下さい。

<問合せ先> 一般社団法人電子情報通信学会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内 TEL [03] 3433-6691 FAX [03] 3433-6659

Reprographic Reproduction outside Japan

Making a copy of this publication

Please obtain permission from the following Reproduction Rights Organizations (RROs) to which the copyright holder has consigned the management of the copyright regarding reprographic reproduction.

Obtaining permission to quote, reproduce; translate, etc.

Please contact the copyright holder directly.

→Users in countries and regions where there is a local RRO under bilateral contract with Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

Users in countries and regions of which RROs are listed on the following website are requested to contact the respective RROs directly to obtain permission.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

Address 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

Website <http://www.jaacc.jp/> E-mail: info@jaacc.jp Fax: +81-33475-5619